

- ・吹雪による雪の輸送・それに起因する雪崩について
根本征樹 (防災科学技術研究所)
- 2. 野外観測 (10:00~12:00)
積雪断面観測 (雪温, 雪質, 密度, 硬度など)
講師: 小杉健二, 根本征樹
- 3. データ整理実習 (12:00~13:00)
講師: 同上
(防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター
新庄支所 小杉健二)
(2008年2月10日受付)

北信越支部

北信越支部学習会報告

「南極ドームふじ氷床深層掘削と地球環境変動」

講師: 本山秀明 国立極地研究所教授
日時: 2007年12月20日(木) 16:25~17:55
場所: 新潟大学大学院自然科学研究科
物質生産棟1階161演習室
参加者: 56人
その他: 新潟大学大学院自然科学研究科地球温暖化地域学寄附講座第2期3回公開学習会との共催

近年, 地球環境の変動が問題視され, いろいろな観点からその研究がなされている. この学習会は, 南極大陸のドームふじ観測拠点における氷床深層掘削を行い, その氷床コアから地球環境の変動を解明しようというものであった.

冒頭でドームふじ深層氷床コアの研究目的が述べられていたがその一つとして, 過去70~100万年間の地球環境変動タイムカプセルの解読というものが挙げられていた. このように想像もつかないような昔をも対象としているので, まずこの研究の規模の大きさに驚いた.

氷床コアは地球環境タイムカプセルのようなものであり大気成分や結晶, 微生物, 火山灰などの情報が詰まっている. これらの情報が当時の環境を知るバロメーターとなる. 例えば氷床コア内の酸素安定同位体を分析することにより, その時代の気候や海水面を読み取ることができる.

2007年1月には深さ3035mまでの氷床コアの



掘削に成功している. これは約72万年前までの情報を含んだ氷に到達したことになる. このように, 実際にその時代の情報に触れることができるという点が, この研究の大きな特徴の一つであり魅力であると感じた.

地球のこれからの在り方が論じられている中, 過去の地球がどのようなであったかを知ることはとても重要なことである. この学習会で聴いたものは地球環境・気候変動の予測を行う上で大きな意味と可能性を持つものであった.

(新潟大学大学院自然科学研究科 鈴木正一 記)
(2008年1月10日受付)